

謎の鬼ノ城 城内調査大公開 Vol. VI

平成20年9月8日～9月14日

岡山県古代吉備文化財センター

はじめに

岡山県古代吉備文化財センターでは、『甦る! 古代吉備の国～謎の鬼ノ城』調査事業を平成18(2006)年度から行っています。この城内の発掘調査の状況を知っていただき、岡山県が誇る歴史と文化を再発見していただくため調査現場を公開いたします。



みこっちゃん

鬼ノ城ってなに?

鬼ノ城は、吉備高原の南のはしにある、高さ約400mの鬼城山に、今から約1300年前につくられた城です。西暦663年、朝鮮半島の白村江において、日本と旧百済の連合軍は、唐・新羅の連合軍と戦い、負けてしまいます。その後、唐・新羅の連合軍が攻めてくることを心配した当時の朝廷は、百済から渡って来た人たちの指導のもと、西日本の各地に城をつくらせました。鬼ノ城は、そのような古代山城の一つと考えられています。

これまでの調査

調査年	調査主体	主な成果
昭和53(1978)年	鬼ノ城学術調査団	鬼ノ城で学術的な調査が初めて行われる。
平成6(1994)年～	総社市教育委員会	城門、水門、城壁、角楼、敷石などの様子が明らかになる。
平成11(1999)年	岡山県古代吉備文化財センター	高床倉庫などの建物や鍛冶工房のあとが明らかになる。
平成18(2006)年～	岡山県古代吉備文化財センター	大量の土器が出土したり、城の中心部で大形の建物の様子が明らかになる。

今年の調査

今回は、城内の中心部で、高床倉庫と考えられる礎石建物がみついている場所の周辺を、7月から12月にかけて発掘しています。新たに建物が見つかったり、倉庫におさめられていたものが出てくるかもしれません。



うら坊三兄弟

温羅と鬼ノ城

鬼ノ城は、「温羅伝説」の主人公、温羅が住みついた城として、古くから語りつがれてきました。
 ...第11代垂仁天皇のころ、温羅と名のる鬼神が吉備の国にあらわれた。百済の王子とされ、身長は約4m(!)あり、がっしりした体つきで凶暴な性格だったという。備中国新山に城をつくり、いろいろ悪事をはたらいたため、人々は温羅の住む城を「鬼ノ城」とよび、恐れた。うわさは都の朝廷まで伝わり、皇子の吉備津彦命が軍をつれて退治に向かった。雉や鯉に変身する温羅を相手に苦戦が続いたが、ミコトも鷹や鳩に姿を変えて戦い、ついに温羅を倒した。...

こうした言い伝えは、江戸時代にはまとめられたようで、やがて桃太郎の鬼退治ばなしとむすびつけられるようになります。しかしすべてが作り話というわけでもないようです。温羅が百済の王子とされていますが、「日本書紀」には、古代山城をつくる時、日本に渡ってきた百済の人たちの指導を受けたと書かれています。

鬼ノ城のつくり



たかっちゃん



北門 (復元)

四つの門の中では唯一、排水溝のある門です。



突出部

「屏風折れの石垣」ともいわれる、石垣を突き出させた部分です。



角楼 (復元)

城の背後を守るためにつくられたと考えられています。



西門と土塁 (復元)

西門は城門のなかでは最も大きなものでした。城壁の大部分は土で作られていました。



敷石

城壁が崩れるのを防ぐため、石がしかれていました。



水門

雨水で城壁がこわれないように、城外へ水を出すための施設です。



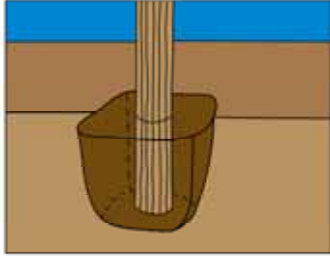
鬼ノ城は、4つの城門、6つの水門、土塁や石垣で作られた城壁、角楼、敷石、そして城内の倉庫と考えられる礎石建物群からなります。規模は、全周が約2.8km、面積が約30.6ha (桃太郎スタジアムが15個分) あります。



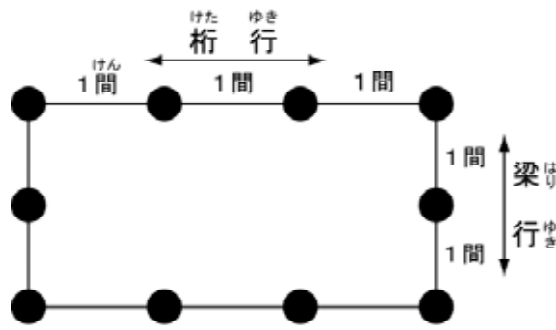
いいだくん



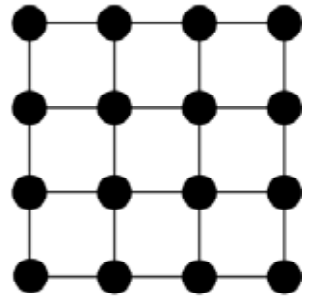
そせき たてもの
礎石建物の柱



ほったてばしらたてもの
掘立柱建物の柱



がわばしらたてもの
側柱建物



そうばしらたてもの
総柱建物

建物の柱の配

柱のたてかたや柱の配置で、建物の
役割も違うんだよ。



イノッチ

城内の建物

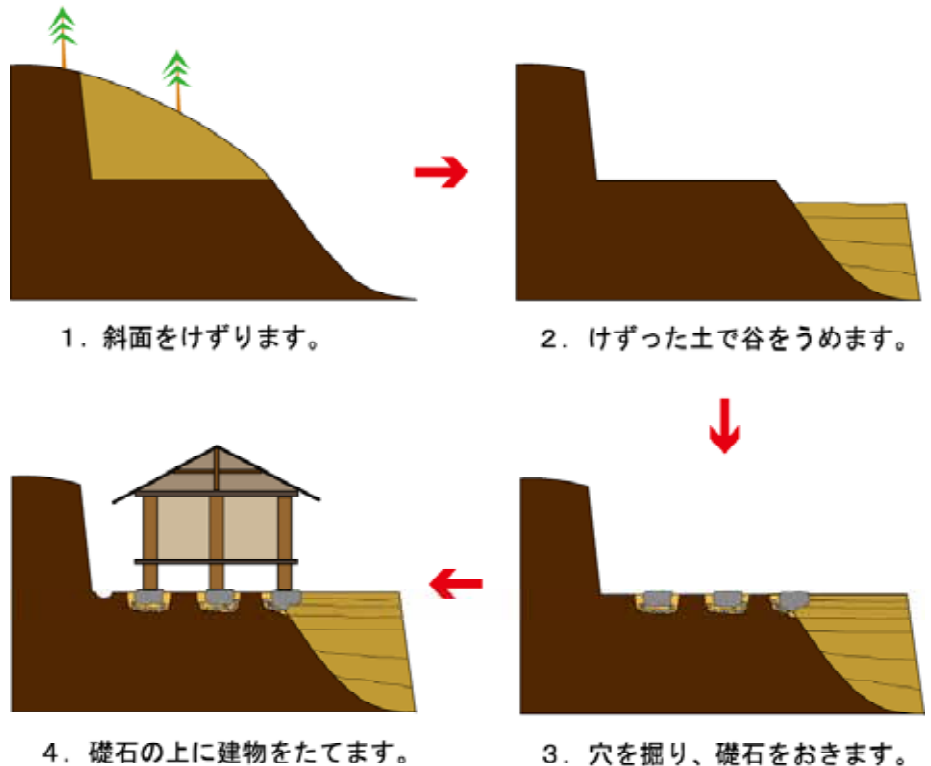
古代の建物は、柱のたて方の違いによって、掘立柱建物と礎石建物に分けられます。鬼ノ城でも、両方の建物が見つかっています。

鬼ノ城は山につくられた城で、斜面の多いところでは、大規模な造成工事を行っていたことがわかりました。

建物は柱の配置によって、総柱建物と側柱建物にわけられます。総柱建物は、柱が建物の内側にもあり、重さに耐えられる建物で、倉庫に使われていたと考えられています。側柱建物は、建物の外側にだけ柱がある建物で、人が住んだり、仕事をしていたと考えられます。



キージー



城内での礎石建物のたてかた

鬼ノ城の城内建物

建物名	調査区	規模 (間)	桁行 (cm)	梁行 (cm)	面積 (m ²)	柱の配置
礎石建物1	-	3 × 3	745	580	43	総柱
礎石建物2	A2-10区	3 × 3	524	501	26	総柱
礎石建物3	-	4 × 3	715	610	44	総柱
礎石建物4	-	4 × 3	767	660	51	総柱
礎石建物5	A2-3区	6 × 2	1750	600	105	側柱
礎石建物6	A2-2区	6 × 2	1760	650	114	側柱
礎石建物7	A2-5区	3 × 3	720	(540)	39	総柱
掘立柱建物1	A2-3区	3 × 2	770	470	36	側柱

調査速報！

今年度は、8つの調査区で発掘調査を実施します。前半には10区から13区までの調査を行いました。

建物群の中央で、谷部にあたる11区では、現在の地表から約3m近くも低いところで、鬼ノ城当時の地面であった岩盤があらわれました。当時の谷は今よりも深かったようで、その後、土が崩れ、谷の大部分は埋まってしまったようです。

12区では、未発見の建物が埋もれていないか確かめました。しかし後世に大規模に土地が改変されたようで、建物のあとは見つかりませんでした。

13区では、昨年度調査した礎石建物7の背後を調査しました。斜面を切り崩した、造成工事のあとが見つかりました。



うらパパ

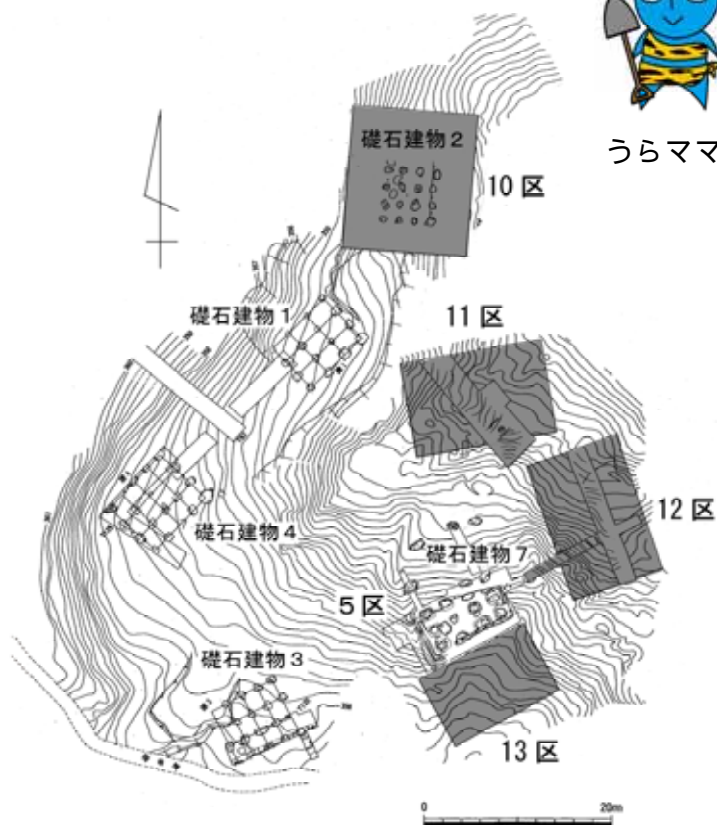


10区 礎石建物2

倉庫の中には何が入っていたのかな？



うらママ



高床倉庫群の全体図(1/800)

高床倉庫あらわる！

10区では総柱の礎石建物2の全容が明らかになりました。建物の規模は桁行が3間(5.24m)、梁行が3間(5.01m)、面積は26㎡で、正方形に近い形をしています。周辺で見ついている建物と同じように高床倉庫であったと考えられますが、これまで鬼ノ城で見ついている倉庫の中では、一番小さなものです。

お問い合わせ

岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136 岡山市西花尻1325-3

電話 086-293-3211 FAX 086-293-0142

ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

ホームページでは、「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」のコーナーにて、城内調査のホットな情報をお伝えしています。ぜひご覧下さい。

この資料の無断引用・転載
はご遠慮ください。



こいくん